

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 9 - 8 6 0 0 4

(43) 公開日 平成 9 年 (1997) 3 月 31 日

(51) Int. Cl.:	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B41J 11/48			B41J 11/48	
13/00			13/00	
13/10			13/10	
15/04			15/04	

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平 7 - 2 4 7 5 8 9
(22) 出願日 平成 7 年 (1995) 9 月 26 日

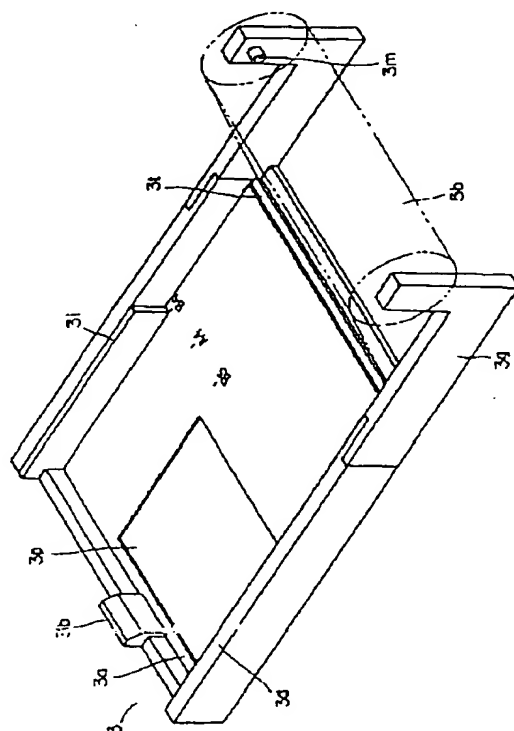
(71) 出願人 0 0 0 0 0 1 0 0 7
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子 3 丁目 30 番 2 号
(72) 発明者 朝倉 修
東京都大田区下丸子 3 丁目 30 番 2 号 キ
ヤノン株式会社内
(74) 代理人 弁理士 大塚 康德 (外 1 名)

(54) 【発明の名称】 記録装置及び情報処理装置

(57) 【要約】

【課題】 連続記録シートを使用可能な記録装置を小型化する。

【解決手段】 給送トレイ 3 a は、単票記録シートを積載するトレイである。給送トレイ 3 a の下面には、連続記録シート（ロールシート）の案内通路 3 s が設けられている。ロールシート 5 b は、ロールシートホルダ 3 g に回動可能に軸支され、案内通路を 3 s を通して、給送力セット 3 の先のシート送りローラに供給される。案内通路 3 s は、給送トレイ 3 a と平行して設けられているため、記録装置を小型化することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 記録シートに画像を記録する記録装置であって、
単票記録シートを載置する給送トレイを有する単票記録シート給送手段と、
前記給送トレイの載置面と平行して連続記録シートを案内する案内通路を有する連続記録シート給送手段と、
を備えることを特徴とする記録装置。

【請求項 2】 前記連続記録シート給送手段は、前記連続記録シートを保持する保持手段を有することを特徴とする請求項 1 に記載の記録装置。

【請求項 3】 前記保持手段は、ロール状記録シートのロールを前記給送トレイの前方に回動可能に保持することを特徴とする請求項 2 に記載の記録装置。

【請求項 4】 前記保持手段は、着脱可能であることを特徴とする請求項 3 に記載の記録装置。

【請求項 5】 前記案内通路は、前記給送トレイの下面に位置することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の記録装置。

【請求項 6】 記録シートに画像を記録する記録装置であって、

記録シートを画像の記録部に給送する給送手段と、
単票記録シートを載置する給送トレイと、
前記供給トレイの前方にロール状記録シートのロールを回動可能に保持する保持手段と、
を備え、前記給送トレイを前記ロール状記録シートの供給経路とすることを特徴とする記録装置。

【請求項 7】 前記保持手段は、着脱可能であることを特徴とする請求項 6 に記載の記録装置。

【請求項 8】 前記保持手段は、前記給送トレイに収容可能であり、該給送トレイから突出して前記ロール状記録シートを保持することを特徴とする請求項 6 に記載の記録装置。

【請求項 9】 請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか 1 項に記載の記録装置を有する情報処理装置であって、
情報を入力するキーボードの下方に前記給送トレイを備えることを特徴とする情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、記録装置及び情報処理装置に係り、特に、記録シートに画像を記録する記録装置及びそれを備えた情報処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、各種情報処理装置に接続して使用される記録装置や、ワードプロセッサ、パーソナルコンピュータ等に搭載された記録装置において、記録量の増大や記録処理の高速化の要求に伴い記録紙の自動給送装置の必要性がクローズアップされてきている。

【0003】 自動給送装置は、記録装置の記録紙挿入口部に複数枚の記録紙を搭載可能にした給送トレイまたは

着脱可能な給送トレイ（給送カセット）と、給送機構部とからなる装置が一般的である。

【0004】 記録紙のサイズの選択の方式には、記録装置において使用可能な最大の記録紙サイズを積載可能な給送トレイまたは給送カセットを設け、適宜所望のサイズの記録紙をセットする方式や、使用する記録紙サイズによって最適サイズの給送トレイまたは給送カセットに交換する方式がある。

【0005】 また、大量の情報を記録する場合や垂れ幕印刷を行う場合には、ロール状又はファンフォールド状の連続記録シートを用いる必要がある。この場合、前述のような単票記録シートの給送トレイの給送通路を用いて連続記録シートの給送を行うことは困難であるため、連続記録シートの給送通路を上記給送トレイの給送通路と異なる方向に設ける必要があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来例においては、多様なサイズの記録紙に対応する必要性から記録装置が大型化し、また、ロール状またはファンフォールド状の記録紙に対応する必要性から記録装置は一層大型化してきた。

【0007】 本発明は上記の問題点に鑑みてなされたものであり、連続記録シートを使用可能な記録装置を小型化することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため、本発明に係る記録装置は、記録シートに画像を記録する記録装置であって、単票記録シートを載置する給送トレイを有する単票記録シート給送手段と、前記給送トレイの載置面と平行して連続記録シートを案内する案内通路を有する連続記録シート給送手段とを備えることを特徴とする。

【0009】 本発明の好適な実施態様に拠れば、例えば、前記連続記録シート給送手段は、前記連続記録シートを保持する保持手段を有する。

【0010】 また、例えば、前記保持手段は、ロール状記録シートのロールを前記給送トレイの前方に回動可能に保持する。

【0011】 また、例えば、前記保持手段は、着脱可能である。

【0012】 また、例えば、前記案内通路は、前記給送トレイの下面に位置することを特徴とする。

【0013】 また、本発明に係る記録装置は、記録シートに画像を記録する記録装置であって、記録シートを画像の記録部に給送する給送手段と、単票記録シートを載置する給送トレイと、前記供給トレイの前方にロール状記録シートのロールを回動可能に保持する保持手段とを備え、前記給送トレイを前記ロール状記録シートの供給経路とすることを特徴とする。

【0014】 本発明の好適な実施態様に拠れば、例え

ば、前記保持手段は、着脱可能であることを特徴とする。

【0015】また、例えば、前記保持手段は、前記給送トレイに収容可能であり、該給送トレイから突出して前記ロール状記録シートを保持する。

【0016】また、本発明に係る情報処理装置は、請求項1乃至請求項8のいずれか1項に記載の記録装置を有する情報処理装置であって、情報を入力するキーボードの下方に前記給送トレイを備えることを特徴とする。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しながら本発明の実施の形態を説明する。

【0018】【発明の第1の実施の形態】図1は、本実施の形態に係る記録装置を内蔵した情報処理装置の一例であるワードプロセッサの外観斜視図である。同図において、1は、文書を入力したり、編集の指示や印刷の指示等を与えるキーボードである。2は、編集中心の文書や、印刷処理等に関する各種メニュー等を表示する液晶パネル等の表示部である。4は、記録シートに文字や図形等の画像を記録する記録装置である。3は、記録シートを記録装置4に供給する給送カセットである。5は、記録シートであり、給送トレイ3から記録装置4に給送された後、記録装置4において画像を記録され排出される（図示の状態）。

【0019】図2は、上記ワードプロセッサの断面図である。同図において、5aは、単票記録シートであり、給送カセット3の内部に積載されている。3pは、単票記録シート5aを給送ローラ4rに所定の押圧力で押し付けるプレッシャプレートである。給送カセット3の給送トレイ3a（図6参照）の下部にはロール状記録シート5bを送りローラ4rに案内する案内通路3sが設けられている。

【0020】4aは、インクジェット記録ヘッドであり、記録シート5（5aまたは5b）の送り方向（図面においては、右から左）と直交する方向（図面においては表から裏）に配置されたガイド軸4cにガイドされ往復移動するキャリッジ4bに装着されている。

【0021】4nは、記録ヘッド4a上の記録シート5に対向する面に、前述の送り方向に平行して1列に設けられた記録ノズルである。インクジェット記録ヘッド4aは、キャリッジ4bにより往復移動されながら、記録情報に応じて記録ノズル4nから液体インクを記録シート5に吐出することにより記録を行う。

【0022】4dは、記録シート送りローラであり、送りローラ4dに押圧されているピンチローラ4eと共働して給送トレイ3から給送ローラ4rにより挿入される記録シートを搬送する。

【0023】4fは、送りローラ4dと同期して略等しい周速で回転する排紙ローラであり、拍車ローラ4gと対をなして設けられ、記録ヘッド4aによって記録が行

われた記録シート5を排出口4jに向かって排出する。

【0024】6は、キーボード1からの入力に基づいて文書等を編集したり、オペレータの指示に従って編集した文書データ等から画像情報を生成したり、記録装置を駆動して画像を記録せしめる等、ワードプロセッサ全体の制御を司る制御部である。図3は、ワードプロセッサの構成例を示すブロック図である。制御部6は、ROM6bに格納された制御プログラムに基づいて動作するマイクロプロセッサ（MPU）6aによってワードプロセッサ全体を制御する。

【0025】制御部6において、6cは、MPU6aのワークメモリとして機能するRAM、6dは、所定の時間を計時するタイマである。6s、6e、6f、6gは、夫々給送モータ4s、インクジェットヘッド4a、キャリアモータ4k、シート送りモータ4lのドライバである。また、6h、6iは、夫々キーボード1、表示部2のコントローラである。

【0026】記録装置4は、給送モータ4s、インクジェットヘッド4a、キャリアモータ4k、シート送りモータ4l、シートセンサ4m、ホームポジションセンサ4h、温度センサ4p、湿度センサ4q等から構成されている。シートセンサ4m、ホームポジションセンサ4h、温度センサ4p、湿度センサ4qは、直接MPU6aに接続されている。

【0027】次に、印刷に関する動作例を説明する。本実施の形態においては、書式設定メニューと印刷メニューによって印刷に関する設定を行ない、印刷を行うことができる。

【0028】図4は、表示部2に書式設定メニューを表示した例を示す図である。この書式設定メニューは、通常の技術に基づき、例えばキーボード1によって書式設定の機能を選択することによって表示される。キーボード1を操作して「用紙サイズ」等の書式の設定が完了すると、表示部2は、文書編集画面となり、キーボード1を介して文書や図形等を入力し、それを編集・加工して画像情報を作成する。作成された画像情報はRAM6c上の所定の領域に記憶される。

【0029】作成した画像情報を記録シートに印刷する際は、印刷メニューを表示し所望の設定を施す。印刷メニューの表示は、キーボード1によって印刷の機能を選択することによって行うことができる。

【0030】図5は、表示部2に印刷メニューを表示した例を示す図である。印刷の指示は、キーボード1を操作して、例えば「印刷部数」等の印刷の機能の設定を行った後、例えば、キーボード1上に配された「印刷開始」キーを押すことによって行うことができる。

【0031】「印刷開始」キーが入力され、印刷が指示されると、制御部6のMPU6aはROM6bに格納された制御プログラムに従い、先ず給送モータ4sを駆動して給送ローラ4rを回転させ、記録シート5の先端が

10

20

30

40

50

送りローラ 4 d に当たり、適度なループができるまで記録シート 5 を送り、その後駆動を停止する。

【0032】給送モータ 4 s の停止後、送りローラ 4 d を所定量回転させて記録シート 5 を初期セット位置にセットする。この際給送ローラ 4 r は、ワンウェイクラッチを介して給送モータ 4 s によって駆動されているため、送りローラ 4 d によって送られる記録シート 5 により連れ回りする。

【0033】記録シート 5 のセットが完了すると、RAM 6 c の所定領域に格納された画像情報を順次読出し、該画像情報に従いキャリアモータドライバ 6 f 及びシート送りドライバ 6 g によりキャリアモータ 4 k 及びシート送りモータ 4 l を夫々駆動し、画像情報に応じたタイミングでヘッドドライバ 6 e によりインクジェット記録ヘッド 4 a を駆動して記録シート 5 にインクを吐出して記録を行う。

【0034】1 ページ分の記録が終了するとシート送りモータ 4 l を更に駆動して、シート送りローラ 4 d 及び排出ローラ 4 f を、記録シート 5 が排出口 4 j から排出されるまで駆動して記録シート 5 の排出を行う。

【0035】ここで画像情報が複数ページに及ぶ場合、または 1 ページ分の記録情報であっても同じ記録を複数枚必要とする場合には、1 枚目の記録シート 5 の排出に引き続き、給送ローラ 4 r を駆動して次の記録シートの給送を行い、全記録シートについて記録が終了するまで記録が行われる。

【0036】次に、給送カセット 3 の詳細な構成例を説明する。図 6 は、給送カセット 3 の構成例を示す斜視図である。同図において、3 a は給送トレイであり、分離斜面 3 c を有する分離部材 3 b、左ガイド 3 d、シート受け部 3 e 等から構成されている。シート受け部 3 e には、搭載された記録シート 5 を給送ローラ 4 r に押圧するプレッシャプレート 3 p が設けられている。3 h は、後述するように着脱が可能（図 7 参照）な後端ガイドであり、この例においては、A 4 サイズの記録シートを搭載したときに丁度記録シート 5 a の後端がガイドされるように構成されている。B 5 サイズの記録シートを搭載するときは記録シート 5 a を前詰めでセットし、また B 4 サイズの場合には、後端ガイド 3 h を取り外して記録シート 5 a をセットする。

【0037】右ガイド 3 i は、積載する記録シート 5 のサイズに合わせて図示の 2 点鎖線に示すごとく記録シート 5 の幅方向にスライド動作することが可能な構成を有する。

【0038】後端ガイド 3 h の下部には、図 2 に示した連続記録シート 5 b を案内する案内通路 3 s に連続記録シート 5 b を挿入する挿入口が給送トレイ 3 の前方に開口するように構成されている。

【0039】図 7 は、シート後端ガイド 3 h を取外した状態の給送カセット 3 の斜視図である。図示の如く、案

内通路 3 s の開口部には給送カセット 3 に回転可能に取りつけられたガイドローラ 3 t と案内面 3 n が設けられている。また、給送カセット 3 には、給送ローラ 4 r に対向する位置にプレッシャプレート 3 p が設けられている。

【0040】給送カセット 3 に単票記録シート 5 a を入れるには、まず給送トレイ 3 をキーボード 1 の下部より手前に引き出して記録シート 5 を積載し、その後キーボード 1 の下部に再び挿入する。

【0041】ロール状又はファンフォールド状の連続記録シート 5 b に記録を行う場合には、シート後端ガイド 3 h を取り外した状態（図示の状態）で記録シート 5 b の先端を案内面 3 n に添わせて案内通路 3 s に挿入し、その先端が給紙トレイ部 3 a の下部を通過し、図 2 に示す如く、送りローラ 4 d とピンチローラ 4 e のニップ部に達するまで押し進める。

【0042】この給紙カセット 3 に設けられた案内通路 3 s を用いることにより、連続記録シートに記録を行う場合にも給送トレイ 3 a 上に積載されている記録シート 5 a を取り除くことなく、また給送カセット 3 を着脱、交換することなく、また給送カセット 3 による給送の方向と異なる方向の連続記録シート専用の給送通路を設けることなく、ワードプロセッサの前面のキーボード 1 の下部より連続記録シート 5 b を供給して記録を行うことが可能になる。

【0043】また、図 6 に示す如く、シート後端ガイド 3 h を取り外さない状態においても連続記録シート 5 b を案内通路 3 s に挿入し、記録を行うことも可能である。

【0044】図 8 は、シート後端ガイドを取り外し、その代わりにロールシートを保持するロールシートホルダを装着した状態を示す図である。連続記録シートであるロールシート 5 b は、ロールシートホルダ 3 g に設けられた左右一対の軸 3 m に回転自在に軸支される。そして、ロールシート 5 b の先端は、案内通路 3 s の開口部のガイドローラ 3 t を介して案内通路 3 s を経て記録装置 4 に案内され、そこで画像を記録される。

【0045】案内通路 3 s が位置する高さは、例えば、ロールシート 5 b の終端部（すなわち、ロールシート 5 b が最小巻き経半径になるとき）においても、ガイドローラ 3 t によって巻き癖（カール）を抑制し得るように低い位置に設定することが望ましい。

【0046】上記の構成において、連続記録シート 5 b の先端を前述のニップ部まで挿入した後、キーボード 1 の記録シートセットキー（不図示）を押すことにより、送りローラ 4 d を回転させて記録装置 4 に記録シート 5 b をセットし、記録を行うことができる状態になる。

【0047】ここで、連続記録シート 5 b のセットに際し、「書式設定メニュー」の「用紙サイズ」の設定の欄を「連続シート」に設定するか（図 4 参照）、或いは

「印刷メニュー」の「用紙種類」の設定の欄を「連続シート」に設定し、前述の記録シートセットキーを押した場合には、給送ローラ 4 r を駆動せず、自動的に案内通路 3 s に挿入されている連続記録シート 5 b を記録装置 4 に給送する構成にすることが望ましい。

【0048】また、案内通路 3 s に記録シートを検知するシートセンサを設け、案内通路 3 s に連続記録シート 5 b が挿入されている場合には、給送トレイ 3 a に積載されている単票記録シート 5 a を給送しないよう制御しても良い。

【0049】また、上記の説明においては、案内通路 3 s を給送カセット 3 の給送トレイ 3 a の下部に設けたが、給送トレイ 3 a の下部または上部のワードプロセッサ本体に設けることも可能である。

【0050】以上のように、給送カセットの下部に記録シートの載置面と平行して案内通路を設けて連続記録シートを案内する構成にすることにより、小型で操作性の良い記録装置を実現することができる。

【0051】また、キーボードの下に、連続記録シートを使用可能な給送カセットを配することにより、多様な記録シートを使用可能にしつつ、小型化を実現することができる。

【0052】〔発明の第 2 の実施の形態〕本実施の形態は、上記の第 1 の実施の形態におけるロールシートホルダに関する他の形態を提供するものであり、言及しない部分に関しては第 1 の実施の形態と同様の構成を有する。図 9 は、本実施の形態に係る給送カセットの構成例を示す図である。同図において、31h は給送カセット 31 に移動可能に取付けられた可動シート後端ガイドであり、B4 サイズの記録シートを積載するときには矢印 A 方向に 2 点鎖線に示す位置まで引き出して記録シート 5 a を積載する。

【0053】ロールシート 5 b を使用する場合には、B4 サイズ同様に 2 点鎖線の位置まで可動シート後端ガイド 31h を引き出し、左右 1 対のロールシートホルダ 31g を軸 31q を中心に矢印 B 方向に回動させる。更に左右 1 対の軸 31m を軸 31r を中心に矢印 C 方向に回動することにより、図 8 に示すロールシートホルダ 3g と同様の機能を有するロールシートホルダを実現することができる。

【0054】本実施の形態においては、給送カセット 3 には、上記の実施の形態のような案内通路 3 s が設けられておらず、単票記録シート 5 a も連続記録シート 5 b も同一の給送経路を用い、連続シートの場合にも給送ローラ 4 r を用いて分離部 3 b を通過して記録部 4 に給送される。

【0055】このため、単票記録シート 5 a を積載したまま連続記録シート 5 b に記録を行うことはできないが、給送トレイを小型化すること、或いは積載シート容量を増加することが可能である。また、ロールシートホ

ルダを収容可能な構成であるため、操作性に優れている。

【0056】また、給送トレイの小型化、積載シート容量の増加を考慮しない場合は、給送カセットに第 1 の実施の形態における案内通路 3 s のような案内通路を給送トレイ 3 a の下部に設けても良い。

【0057】また、上記の例は、収納可能なロールシートホルダ 31g を給送トレイ 31 に一体化して設けた例であるが、これは、例えばワードプロセッサ本体の前面（オペレータが操作する側）に設けても良い。

【0058】〔発明の第 3 の実施の形態〕本実施の形態は、給送カセットを交換することによって単票記録シート 5 a と、ロールシート 5 b の双方を使用可能な例を示すものであり、言及しない部分に関しては、第 1 の実施の形態と同様の構成を有する。図 10 は、本実施の形態に係る給送カセットであるロールシートホルダカセットの構成例を示す図である。同図において、32a はロールシート 5 b を分離部材 32b を経由して記録装置部 4 に案内する給送トレイであり、左右に左ガイド 32d、右ガイド 32i が設けられてる。給送トレイ 32a の前方には 1 対のロールシートホルダ部 32g が給送トレイ 32a の左右に設けられており、左右 1 対の軸 32m にてロールシート 5 b を回転可能に保持される。

【0059】給送トレイ部 32a とロールシートホルダ部 32g の接合部にはガイドローラ 32t が左右のガイド 32d、32i に回動可能に設けられており、ロールシート 5 b から記録装置 4 に給送されるロールシート 5 b をスムーズに案内する。

【0060】ロールシート 5 b への記録に際しては、先ず単票用の給送カセット（不図示）をワードプロセッサ下部より取り外す。続いてロールシートホルダカセット 32 のロールシートホルダ部 32g の軸 32m にロールシート 5 b をセットする。そして、ロールシート 5 b の先端をガイドローラ 32t の下を通して分離部材 32b の直前まで引き出した状態で記録装置に挿入する。

【0061】ロールシートホルダカセット 32 がワードプロセッサに装着されると給送トレイ部 32a にセットされているロールシート 5 b の先端部に給送ローラ 4 r が当接し、記録指令とともに前記給送ローラ 4 r により分離部 32b を越して記録装置 4 に送られ記録が行われる。

【0062】本実施の形態においては、通常（単票用）の給送トレイの他に、上記の如き専用のロールシートホルダカセット 32 を必要とするが、ロールシートホルダカセット 32 にロールシート 5 b をセットする作業が容易であり、また、給送ローラ 4 r により記録装置 4 にロールシート 5 b の送り込みを行うことが可能であるため、ロールシート 5 b のセットが容易である。

【0063】ここで、連続記録シートを使用している場合に、ワードプロセッサの記録シートの設定が単票シ

10

20

30

40

50

トのモードになっていると記録シートの排出に際し連続記録シートをシートが終了するまで排出してしまうという問題がある。

【0064】この問題は、例えば、単票用の給送カセットとロールシートホルダカセット32に、それらを識別するための識別子（カセット種類マーク）を設け、ワードプロセッサ本体に該識別子に基づいて給送カセットの種類を判別するセンサを設けることにより、ロールシートホルダカセット32を装着した際に自動的に連続記録シートを使用するモードに切り替える構成にすることによって回避することができる。

【0065】上記の第1～第3の実施の形態においては、インクジェット方式の記録装置を搭載したワードプロセッサについて説明したが、記録方式は、例えば、ワイヤードット方式や熱転写方式等の他の方式でも良く、また、記録装置の形態は、ワードプロセッサに内蔵した形態のみならず、例えば、パーソナルコンピュータに内蔵した形態や、ファクシミリやプリンタの形態等でも良い。

【0066】また、本発明は、例えば、ホストコンピュータ、インタフェース、プリンタ等の複数の機器から構成されるシステムに適用しても、ファクシミリ等の1つの機器からなる装置に適用しても良い。また、本発明はシステム或は装置にプログラムを供給することによって実施される場合にも適用できることは言うまでもない。この場合、本発明に係るプログラムを格納した記憶媒体が本発明を構成することになる。そして、該記憶媒体からそのプログラムをシステム或は装置に読み出すことによって、そのシステム或は装置が、予め定められた仕方

で動作する。

【0067】

【発明の効果】以上説明したように本発明に拠れば、連続記録シートを使用可能な記録装置を小型化することができるという効果がある。

【0068】また、連続記録シートを使用可能な記録装置を内蔵した情報処理装置を小型化することができるという効果がある。

【0069】

【図面の簡単な説明】

【図1】記録装置を内蔵した情報処理装置の一例であるワードプロセッサの外観斜視図である。

【図2】第1の実施の形態に係る給送カセットの構成例を示す図である。

【図3】ワードプロセッサの構成例を示すブロック図である。

【図4】表示部に書式設定メニューを表示した例を示す図である。

【図5】表示部に印刷メニューを表示した例を示す図である。

【図6】第1の実施の形態に係る給送カセットの構成例

を示す斜視図である。

【図7】シート後端ガイドを取外した状態の給送カセットの斜視図である。

【図8】シート後端ガイドを取り外し、その代わりにロールシートを保持するロールシートホルダを装着した状態を示す図である。

【図9】第2の実施の形態に係る給送カセットの構成例を示す図である。

【図10】第3の実施の形態に係る給送カセットであるロールシートホルダカセットの構成例を示す図である。

【符号の説明】

- 1 キーボード
- 2 表示部
- 3 給送カセット
 - 3 a 給送トレイ
 - 3 b 分離部材
 - 3 c 分離斜面
 - 3 d 左ガイド
 - 3 e シート受け部
 - 3 g ロールシートホルダ
 - 3 h シート後端ガイド
 - 3 i 右ガイド
 - 3 m ロールシート軸
 - 3 p プレッシュプレート
 - 3 s 案内通路
 - 3 t ガイドローラ
- 4 記録装置
 - 4 a インクジェット記録ヘッド
 - 4 b キャリッジ
 - 4 c ガイド軸
 - 4 d 記録シート送りローラ
 - 4 e ピンチローラ
 - 4 f 排紙ローラ
 - 4 g 拍車ローラ
 - 4 j 排出口
 - 4 n 記録ノズル
 - 4 r 給送ローラ
- 5 記録シート
 - 5 a 単票記録シート
 - 5 b 連続記録シート
 - 3 1 a 給送トレイ
 - 3 1 b 分離部材
 - 3 1 c 分離斜面
 - 3 1 d 左ガイド
 - 3 1 g ロールシートホルダ
 - 3 1 h 可動シート後端ガイド
 - 3 1 i 右ガイド
 - 3 1 m ロールシート軸
 - 3 1 p プレッシュプレート
 - 3 2 a 給送トレイ

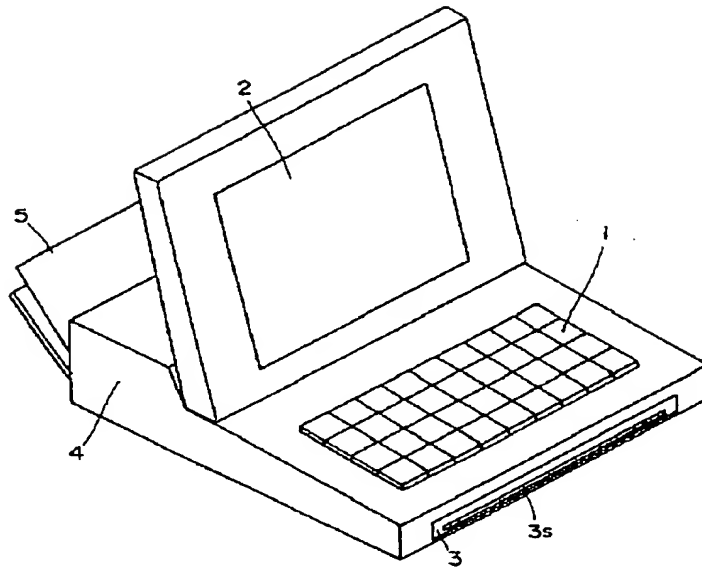
11

12

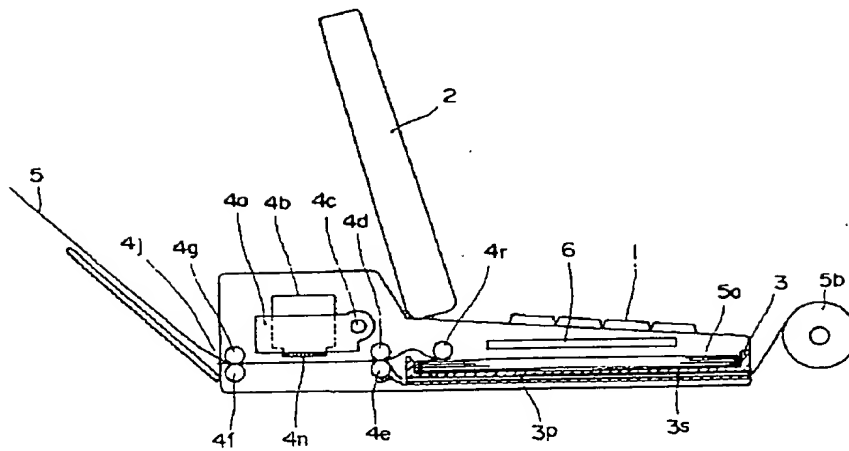
3 2 b 分離部材
3 2 c 分離斜面
3 2 d 左ガイド

3 2 g ロールシートホルダ
3 2 i 右ガイド
3 2 m ロールシート軸

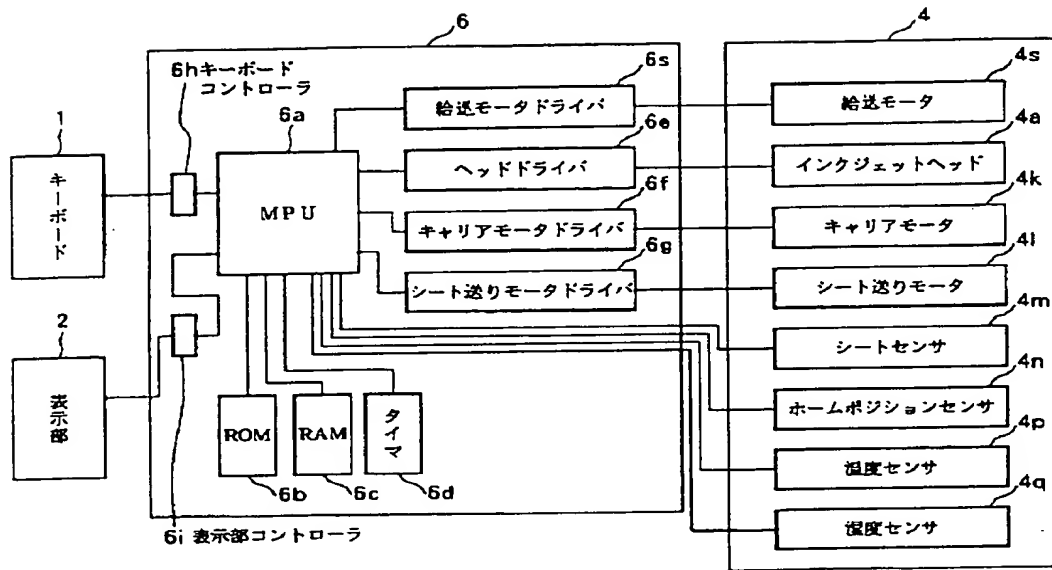
【図 1】



【図 2】



【 図 3 】



【 図 4 】

2

書 式 設 定			
■ 用紙サイズ	B5縦	A4縦	B4縦
	B5横	A4横	B4横
	葉書縦	葉書横	写真葉書縦
	原稿A4	原稿B4	フリー
	横112	[210] mm	
	縦112	[297] mm	
<input type="checkbox"/> 1行の文字数	[36] 桁	(最大値 = 56)	
<input type="checkbox"/> 1頁の行数	[29] 行	(最大値 = 72)	
<input type="checkbox"/> 縦横形式	横書き	縦書き	
<input type="checkbox"/> 装とじ印刷	なし	あり	
<input type="checkbox"/> 欧文印刷	なし	10E, f	12E, f
<input type="checkbox"/> 文字サイズ	0	1	2
<input type="checkbox"/> 最大文字サイズ	7 点	10.5 点	12 点

15時7分

【 図 5 】

2

印刷	
■ 印刷部数	[10] 部
<input type="checkbox"/> 部分印刷	[0] 頁分 (0 = 全頁印刷、1~99 = カーソル行以降の印刷頁数分)
<input type="checkbox"/> 印刷速度	標準 高速
<input type="checkbox"/> 往復印刷	なし あり
<input type="checkbox"/> 印刷書体	明細書 第2書体 (カードなし)
<input type="checkbox"/> コメント	なし あり
<input type="checkbox"/> 半角中央詰	なし あり
<input type="checkbox"/> 定着モード	なし あり
<input type="checkbox"/> 用紙縮小率	なし あり
<input type="checkbox"/> 用紙種類	標準紙 OHPシート 写真紙等 シール 連続シート
<input type="checkbox"/> 差込文書名	[]

16時3分

【 図 6 】

